

まとめ

今回の飼育から知り得たことを整理すると次のとおりとなる。

(イ) 産卵時期

昨年及び一昨年、そして今年(本年9月26日高嶋明氏が関宮町葛畑で採集した♀蝶を飼育させていただいているが、9月30日から産卵を開始した。)の飼育結果からも、現地では9月末から産卵を開始して、10月中旬まで産卵するものと推定する。

(ロ) 産卵数

1頭の産卵数の確認は困難であるが、飼育下では、今回のように多数を産卵し、しかも最後まで受精卵であることがわかったので、自然状態でも、かなり多数を産卵をする可能性が高い。(今年の♀は1151産卵)

(ハ) 卵の形態

卵の形態は地域差、個体差等が存在するものと推定出来る。今回は1例だけであったが、蝶類幼虫図鑑(白水、原)に記載された卵縦隆起条18~20と比較すると23~25と明らかに多い。

(ニ) 越冬態

前回卵越冬の可能性を述べたが、今回も卵越冬は確認出来なかった。高砂市の屋外の12月末から1月19日の間、かなりの低温下でも孵化する個体があったことは注目に値する。

(ホ) 越冬後の幼虫

孵化率は高かったが、越冬後幼虫数は大幅に減少した。越冬の厳しさを感じる。

(ヘ) 令数

本種を含めた日本における大型ヒョウモン類の令数は、すべて5令の観察記録であるが、今回6令を数えた。この地域の集団が6令なのか、この個体が特別であるのか、今後の調査を要する。

(ト) 羽化時期

羽化は6月中旬から7月19日までかなりの長期間にわたって行なわれた。平地産の本種とは一部同時期の羽化時期のものもあったが、やはり遅い傾向が強い。これは前回も述べた通り、環境による原因よりも、遺伝的なものである可能性が高い。これは令数と関係しているかも知れない。

(チ) 羽化成虫

羽化した成虫の数は、卵、幼虫、蛹等が各地に分散されたため、正確な数は不明であるが、高砂市、姫路市、神戸市、伊丹市、夢前町、埼玉県の各地で計90頭の羽化を確認出来た。卵の数から比較すると1割にも満たない数であった。成虫の大きさも昨年同様平地産

よりも小型であった。ただ埼玉県で岡嶋氏が飼育された中の1♀のみが平地産の大きさであった。

おわりに

本年現地での観察を期待して幼虫期の5月末から9月末まで計5回訪れたが、やはり減少が激しいのか、姿さえ見ることが困難となっている。幸い本年も前述の通り採卵出来たので、もう一年観察を続けてみたい。

この文を書くにあたり、飼育記録の提供をいただきまた御指導と御助言をいただいた岡嶋秀紀、木村三郎、浜田静、広畑政己の諸氏、そして本年の♀蝶を御恵与いただいた高嶋明氏に深くお礼を申しあげる。

参考文献

近藤伸一(1981)…兵庫県の山地性オオウラギンヒョウモンについて

(てんとうむし No.7 102~105)

白水隆・原章……原色日本蝶類幼虫大図鑑(保育社)

日本気象協会神戸支部…兵庫県気象月報

福田晴夫他……原色日本昆虫生態図鑑(Ⅲ)チョウ編
牧林功………チョウの幼虫の形態

(ニューサイエンス社)

(S.62: Shinichi Kondo 神戸市)

姫路市でウラミスジジミ

木村三郎

本種が兵庫県で初めて記録されたのは、1930年小林賢三氏が神戸市灘区の六甲登山道からであった。その後神戸市摩耶山麓、六甲で、県北部からは豊岡市、養父郡関ノ宮町、大屋町、八鹿町、段が峯、美方郡村岡町、城崎郡竹野町、城崎町、日高町、出石郡但東町、播磨地方では赤穂郡上郡町、相生市、宍粟郡千草町、(宍粟郡一の宮町、揖保郡新宮町 いずれも未発表)で記録されている。

この度姫路市の広峰山と随願寺の中間地点において1982年6月23日この地域を調査中の沼口憲治氏により1♀が採集された。その後何回か調べたが確認出来なかった。この地点は広範囲にわたってコナラ、アバマキ林が存在し、おそらくこの種を食樹としていていると思われる。なお貴重な標本を恵贈下さった沼口憲治氏に深く感謝申し上げる。

(S.03: Saburoou Kimura 飾磨郡夢前町)